

平成28年度宮城県独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会
東北職業能力開発大学校部会（第2回）開催概要

1 開催日時 平成29年2月9日（木） 10:30～12:10

2 開催場所 東北職業能力開発大学校 1号館2階 会議室

3 主な議題

- ・平成28年度事業実施及び平成29年度事業計画について
- ・その他

4 議事経過

資料に沿って事務局から説明が行われた後、意見交換が行われた。主な意見は以下のとおり。

（高度技能者養成訓練について）

- ・ 県北地域における工業団地の完成、栗原市内における豊田合成東日本株式会社の新工場設立等に伴い、有効求人倍率が1.8倍まで上昇しており、県北地域の産業を担う人材を輩出する存在として、東北職業能力開発大学校（以下、「東北能開大」という。）への期待が更に大きくなってきている。
- ・ 東北能開大には、地元企業で活躍できる優秀な人材を輩出していただき、地域経済の発展に寄与してほしい。
- ・ 栗原地域の商店街では、多くの東北能開大生がアルバイトとして働いており、素直でよく働くと評判である。ぜひ、東北能開大生には地元企業に就職してほしい。
- ・ 技術力は高いが、会話が苦手という若年技術者が非常に多いように感じている。東北能開大には『心の教育（コミュニケーション能力等）』にも力を入れてほしい。
- ・ テレビ番組でものづくりの競技会の様子を見ることがあるが、ハイレベルのものづくりにチャレンジする姿は非常に印象深いものである。東北能開大による各種競技会への参加実績が、年々減少傾向にある。学生の参加意欲やモチベーション向上に繋がる働きかけや支援が必要であると感じる。
- ・ 進藤校長の挨拶や話は、常にグローバルスタンダードですばらしい。在籍者に限らず、ぜひ、地元企業に就職した修了生ともコミュニケーションをとって指導してほしい。

（在職者訓練について）

- ・ 自動車会社の増産計画があると聞いている。登米・佐沼地域の企業は不足する人材を人材派遣で対応するようであるが、そのための賃貸物件が足りない程の状況である。この人材不足傾向は、これから1～2年続くであろうと思われるので、東北能開大には企業の人材育成の面で、ぜひ支援してほしい。

(全体を通して)

- ・以前、当部会で『登米総合産業高等学校が、工業分野のインターンシップの受け皿不足で困っているため、東北能開大に協力してほしい』と要望した。今年度、同校の生徒をインターンシップとして受け入れて教育していただき、非常にありがたいことである。今後は、更にハイレベルの技術体験ができるようなインターンシップの実施を期待している。
- ・東北能開大には、毎年、登米市産業フェスティバルや就職ガイダンスに参加いただき、感謝している。引き続き、参加をしてほしい。

平成28年度宮城県独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会
東北職業能力開発大学校部会（第2回）委員名簿

（敬称略・順不同）

加藤 睦 男	（座長）宮城県北部地方振興事務所栗原地域事務所長
三浦 義 博	宮城県経済商工観光部参事兼産業人材対策課長
柴崎 浩 一	築館公共職業安定所長
鈴木 匡 敏	栗原市産業経済部産業戦略課長
伊藤 卓 二	株式会社大崎タイムズ社代表取締役社長
小山 信 康	栗原市企業連絡協議会会長
後藤 康 治	登米市産業振興会総務企画委員長
北館 和 彦	日本労働組合総連合会宮城県連合会仙北地域協議会事務局長